

牛久：学校周辺に見る自然

第16号 ひたち野うしく小，中根小，牛久二小，牛久二中，他 2010年6月7日発行

＜学校にもやって来る鳥＞

子どもたちから先日、「先生、鳥も分かるの〜？」と聞かれ、「得意じゃないけど少しは…」と答えたので、今回は新年度4月に入ってから校庭やその周辺で撮影した鳥をご紹介します。植物の観察ついでで、鳥用のレンズは持ってないので多少見づらい点はあるかと思いますが、ごかんべんを。

①キジバト(牛久市役所近くで)



首に青と黒の縞模様があり、1，2羽で行動することなどから、簡単にドバトと区別できます。よく「デデーポーポー、デデーポーポー」と鳴いているのはこのハトです。

②コゲラ(牛久二小)



スズメと同じくらいの大きさで、日本最小のキツツキとして知られています。幹や枝を下に上に移動しながら、つついては昆虫やクモなどを探して食べます。ときどき木の実を食べることもあるそうです(写真はちょうど虫をくわえています)。



右の写真は、牛久自然観察の森で撮影したもので、たぶんコゲラが巣作りのために掘った穴だと思います。

③キジ(ひたち野うしく小近く)



顔が赤く鮮やかな模様をもっているのが雄、あまり目立たない褐色の模様が雌です。はじめ雌を撮っていたら、雄が危険を知らせるように走り寄ってきました。さらに追いかけて危険を感じると、尾を上げたまま走り去ります。【理科支援員・宮内】

④その他(名前だけ)



ウグイス(牛久二小)



虫を捕まえた
セグロセキレイ(中根小)



シジュウカラ(中根小)



スズメ(牛久二中)



ヒバリ
(ひたち野うしく小)